

THE BORDEAUX PINE Aquitaine, FRANCE FLOORING SERIES



VINTAGE DESIGN :

#140SA “セピア”

#140GY “グレイ”



WABI - SABI :

#140BR “うづくり”

#140HH “ちょうな”

◀BASIC : #140MG “プレーン”

広葉樹のカバに匹敵する硬度を持ち、重厚でワイルドな表情が年数とともに力強さを増す
フランスのクロマツ材、ボルドーパイン。シリーズすべてが 20x140x2,000mm 無垢一枚ものの規格品です。
このたびラフな木取りと選別で屋内土足に適した、#140EC “エコノミー”がデビューします。





ポルドーパインの森はフランスのビスケ湾周辺に位置しており、植林地としてヨーロッパ随一の規模を誇ります。ナポレオン3世の時代から受け継がれる森は、樹齢60年（一般的なレッドパインの4倍）の大樹の安定供給を実現しています。その特性と品質は日本のクロマツにほぼ一致し、コスト面でも破格といえます。



分厚く製材されるポルドーパインのフローリングは断熱性も高く、硬度も一部の広葉樹に迫るほど。その風格は施工後も年数とともに育ち、オーナーは愛着を感じるでしょう。フランス現地ではこのフローリングの表面を削り直して何世代も使い継ぐという文化が存在しています。



“A long journey of us across the history”

ベーシックなプレーナー仕上げの「#140MG」。うづくりのようなブラッシングを施し、かつそのブラシも2種類を使い分けることで引っ掛かりをなくした「#140BR」。ちよな、スプーンカットのような表面加工を施された「#140HH」。歴史あるビルの改修にも使われる「#140SA、そしてGY」。

そのいずれもが、もともと日本市場向けではなく、海辺のリゾート地ならではの文化から、現地建築家との交流の中で製材業者自身が育ててきたものでした。彼らはこの島国の文化に改めて触れたとき、うづくりやちよな加工の美しい陰影、静かな風合いの美しさをエスプリと呼び、そしてこう私たちに問いました。
『もしかして、これ（ESPRIT）をワビサビと呼ぶのかい？』

近年のヨーロッパは年代を問わずジャポニズムというトレンドを継続しており、距離や国境を飛び越え私たちがまた彼らと響き合うのを日々、感じています。
そんなポルドーパイン。作り手は、今日も私たちと心を通わせながら、古きよき手作業を続けています。